

B 型肝炎予防接種の説明書

<p>B 型肝炎とは</p>	<p>B 型肝炎は、B 型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。B 型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあります。うち一部の人では「肝硬変」や「肝がん」など命に関わる病気を引き起こすこともあります。ワクチンを接種することで、体の中に B 型肝炎ウイルスへ抵抗力（免疫）ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。</p> <p>※ 予防接種を受けても、お子さんの体質や体調によって免疫ができないことがあります。</p>
<p>接種対象年齢 接種回数・間隔</p>	<p>生後 1 歳に至るまでの間（標準的には生後 2 か月から生後 9 か月に達するまでの間） 27 日以上の間隔をおいて 2 回接種した後、1 回目の接種から 139 日以上の間隔をおいて 1 回接種。</p>
<p>定期接種対象外 の人</p>	<p>母子感染予防のために抗 HB s ヒト免疫グロブリンと併用して B 型肝炎ワクチンの接種を受ける場合は健康保険が適用されるため、定期接種の対象外となります。</p>
<p>ワクチンの副反応</p>	<p>○注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、発熱（37.5℃以上）などがみられます。 ○極めてまれに、ショック、アナフィラキシー、けいれん等が報告されています。</p> <p>-----</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応が起こった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。</p>
<p>受けることができない人</p>	<p>○明らかに発熱のある人（37.5℃以上の場合） ○重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人 ○その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人 ○医師が不相当と判断した人</p>
<p>予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人</p>	<p>○心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気などの治療を受けている人 ○以前に予防接種を受けたとき、2 日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人 ○今までにけいれんを起こしたことがある人 ○過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 ○予防接種に含まれる成分にアレルギーがある人 ○発育で経過観察といわれている人</p>
<p>ワクチン接種後の注意</p>	<p>○接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこる可能性がありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。 ○接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。 ○接種後当日は過度な運動を控え、1 週間は体調の変化に注意しましょう。 ○接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。 ○接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。 ○このワクチンとほかのワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。</p>